自由投稿

36年前の夫婦別姓エッセー

横浜市中区　内田　千代子

36年前、私は「結婚後の姓にまつわるお話」というエッセーを書いた。東大女子卒業生同窓会誌『さつき』の「夫婦別姓を考える」特集で、福島瑞穂氏、住田裕子氏らの興味深い文章と並んで掲載された。

冒頭はこう始まる。

「結婚して、それまでの姓が夫の姓に変わった時の気持ちは忘れることができません。突然夫の姓で呼ばれても返事もできないこともありました。」

改姓によってそれまでの人生がぷつんと途切れ、別の人生が始まるような不連続性を感じていた。正にアイデンティティ危機というべきか。

結婚は人生の再スタートという。しかし、夫の姓に変わることは、夫あるいは夫の家に付属することでの再スタートという意味を含んでいる。それを喜ぶ人がいるのは自由だが、私にとっては愉快なことではなかった。

法律上は夫婦のどちらの姓を名乗ってもよい。それでも「フツーに」日本で暮らすには夫の姓の方が都合がよいだろうと考えた。せめてフラメンコ舞踊の芸名だけは旧姓を使いたいと思ったが、「それなら友人に券を売らない」と夫にすねられてあっさり諦めた。

人の名前とは、その人のイメージと深く結びついている。大袈裟に言えば人格と結びついている。特に日本では姓で呼び合う習慣なので、その変化は大問題であるはずだ、と重要性を強調し、1980年代後半のアメリカ生活での、目から鱗の体験に続く。

アメリカの病院で男性医師Aから、こちらはドクターBです、と女性医師Bを紹介された。後にこの2人は夫婦であることを知り焦った、しかもBは通称名ではなかった。36年後の日本で何が変わったか？困っている女性は相変わらず多い。一方、日本からアメリカに渡った娘内田舞は姓を保って医師を続けている。

アツく光る夏

横浜市金沢区　千葉　英子

年々厳しさを増す夏の暑さ。冷房が効いた職場と外の出入りだけでも消耗し、目の前のタスクをこなすだけで精一杯になりがちなこの時期に、ありがたいのは患者さんや配達の方の暑い中でのご来院。

夏は様々な屋外フェスティバルや季節限定のイベントなど、推し活が最も盛り上がるシーズンでもあります。自分自身が熱く全力で何かに取り組むことは、暑さに打ち勝つ手段ともなり、仕事や邪念から完全に解放されて純粋に好きな対象に熱中できる時間は、最高のデトックスになり得るのではないかと考えます。推しがお客様の為にひたむきに努力して演じるアツい空間、共有する温度と時間は、単なる娯楽を超えて、観ている側の過酷な夏を生き抜く最強のモチベーションに変わるのではないでしょうか。

夏の海を見ると、以前私も参加した某ダンスボーカルグループのハワイでのファンミーティングを思い出します。推し活という言葉もあまり耳にしなかったその時代に、熱い風と共に全身で推しの圧倒的なエネルギーを直接吸収でき、推し活の極意を味わえた自分史上最高にアツい貴重な夏でした。自分がアツいと、外気の暑さは全く気にならず、出待ちや入り待ちにもワクワク感しかありませんでした。また、その時間を思い出すだけでも熱い夏のエネルギーがよみがえり、それを患者さんにも還元できます。暑さで体力が奪われがちな季節であるからこそ、自分の「好き」を自分なりの方法で応援し、得られた熱量を日々の活力に変換していくことをおすすめします。皆様のストレス解消法や充電法も教えていただきたいと思います。自分の心への投資が、日々の特別な輝きとなり、この暑い夏も元気で充実した毎日を楽しめますように。

犬吠える

厚木市　黒岩　隆

病室の窓に小さき鏡餅
水仙の水吸う音や草枕
冬夕焼け山塊黒く獣めき
四月来て西海岸の古着市
飛花落花ノンストップのパイク群
犬吠える巡回ポリスの春合羽

みんなちがってみんないい

川崎市多摩区　石川　信子

GWに飛行機で大阪に入り、一泊して新幹線で山口に着き、温泉でまったりして車で博多に向うという旅をしました。びっくりしたのは、山口の道の良さと道の駅にある温泉施設の立派さです。四国や九州を旅した特は、海や山への道が険しく、すれ違うのに苦労する狭さでしたが、どんな山道も人里離れた所も道幅が広く舗装されていました。

帰宅後、山口出身の友人に〝道がきれいでびっくりした〟と話をしたら、〝そうなのよ。自分で運転してて、突然ガタガタ道になったと思ったら、島根だった。〟と言っていました。

同じ話を新潟出身の友人にもした所、〝新潟は田んぼの真中を新幹線が止まるのよ。駅前には角栄さんの銅像もあるわ。〟とうれしそうに自慢しておりました。

そうこうしながら、長門市仙崎の金子みすゞ記念館に行ってきました。大正時代に、こんな自由な発想をした人がいたという事と、そんな天才詩人に詩作を禁じた夫と、子どもを守るために命を懸けたみすゞの悲しみに触れました。今こそ、〝みんなちがってみんないい〟と声を大にして叫びたい。早く生まれすぎた、時代を先読みした天才は（ゴッホもそうですが）、その時代の評価が低いのが残念です。

ショパンやモーツァルトも然り、もっと長生きしていたらと惜しむべき才能です。

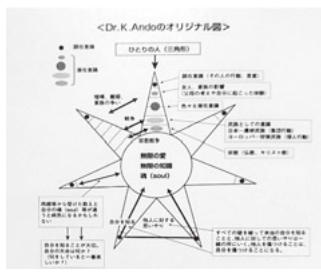
みすゞの世界に浸り、下関のふく汁を飲み九州自動車道をとばして、博多入りしました。好天で温泉に癒され、まだ知らぬ日本を実感しました。

〝みんなちがってみんないい〟

今年の私のスローガンです。

地球に生まれてきた究極目的は、地球で皆と楽しく遊ぶ事！

横浜市神奈川区　安東　恭助



題名の安東恭助哲学と、それにそぐわない事を禁止する思考を、世界に波及させる事を、アースデイ宣言！

2026年4月22日、衆議院第一議員会館会議室！

歯科医・哲学者・知連総長：安東恭助！

ゴシゴシ伝統的歯ブラシ法をやめて、歯周ポケット入り口のバイオフィルムを優しく触れて破る Dr.K.Ando 歯肉化粧ブラシ法で、お口の健康だけでなく、全身的病気も緩和する可能性がある事に気が付いた！

口腔環境を簡単に変えられる事を実感すれば、戦争含む世界問題も簡単に解決する可能性がある事を、世界人類に伝播させたい！

世界を天国にする三種神器

1　地球憲法三カ条　　総長安東恭助 2014年1月3日

①お天道様に向かって誠の精神で生きる。
（宇宙すべてに対して偽りのない精神。）
②なるべく長く生き、すべての能力を発揮し、死ぬ瞬間に最高と思え。
（一生道楽：一生命がけ［首をかけて］で、苦しみも楽しみも楽しむ。）
③日本の和の精神を基に、地球人全員の能力で地球全員の問題を解決する。
（お互い相手を大切にし、協力し合う精神を持って問題を解決する。）
を制定し、それに違反する世界の憲法・法律を無効にする。

2　資本主義（単なる数値・金）から、黄金主義（人の才能・人）への世界黄金主義哲学大革命をせよ！

数字や物質を最優先する幼稚な精神による資本主義時代を終わらせ、個々の才能や人間そのものを黄金とする哲学を提唱せよ！

3　国連に代わる「知性芸術地球連合会議」（知連）を世界大衆で構築せよ！